

「川崎南部ブロック 災害時会員安否確認システム試験運用」実施報告

川崎南部ブロック ブロック長・災害対策エリアコーディネーター
佐藤 範佳（太田総合病院）

平成 29 年度川崎南部ブロックエリア災害対策事業として、大規模災害時における会員安否確認システムの試験運用を実施しました。その結果を以下にご報告致します。

【対象】平成 29 年度の県土会会員名簿に登録されている川崎南部ブロックエリアの会員

【目的】①地震、台風、河川氾濫などによる大規模災害時に会員の安否を速やかに確認し、必要な対応が出来るようにするため

②得られた会員安否情報から支援（人的派遣、物的支援など）に関する方向性を決定するため

【日時】平成 30 年 2 月 4 日（日）18:00 実施 ※東日本大震災級の規模災害が発生したと想定

【概要】川崎南部ブロックエリアにおいて会員が所属している事業所を中心に事業所単位で実施。

事前の説明会で賛同をいただいた事業所代表者様（県土会員）へメールにて試験運用の実施を知らせ、上記日時後、各事業所毎に作成した災害時会員安否確認チェックシートを事業所代表者様のメールに送信した。事業所代表者様には自身の事業所内の会員安否情報を入力していただき、1 週間以内に災害時会員安否確認用メーリングリストのアドレス宛に添付して返信をいただいた。

※災害時会員安否確認チェックシートおよびメーリングリストは、ブロック内の役員で作成した。

メーリングリストはグーグルを活用し、会員個人情報はブロック担当者のみが閲覧できる形とした。

【結果】事前に賛同をいただけた 21 事業所の内、実施の知らせを送信できなかった 2 事業所を除き、19 事業所（会員 150 人）から情報集約を行った。

・事業所単位 68%の返答率 ； 13/19 事業所から期限内に報告を得られた。

・会員単位 49%の返答率 ； 73/150 人の会員情報を得られた。

【評価】良かった点

- ・事業所代表者様から同意を得たことで、実施することが出来た。
- ・災害時会員安否確認チェックシートは、ブロック内の役員で事前に作成し、事業所毎に送信したことで事業所代表者様の情報入力作業そのものは簡単にすることが出来た。
- ・グーグルメーリングリストを活用したことで、コストをかけずに実施することが出来た。

反省点

- ・実施の知らせを送信できない不備があった。
- ・会員情報の扱いについて十分な説明が出来ていなかった。

【まとめ】初めての試験運用の結果としては、一定の成果は得られたのではないかと捉えております。しかし、ブロックエリア内にある全ての事業所を対象とした結果ではなく、実施の知らせを送信できないといった不備もありました。今後はこれらの課題を踏まえて、会員の皆様から十分にご理解をいただきながら、継続的に実施していくことが重要であると考えております。

事業所単位で実施したメリットとして、事業所内の会員安否情報を把握している事業所代表者様からの情報集約は、ブロック強化の観点に一致すると思えます。